図書の主題分類に基づくビブリオバトルのスピーチ内容分析

山村　隼斗

ビブリオバトルとは図書を用いたコミュニケーションゲームである。2010 年代から開催場所や参加者層も多様化し、現在では教育分野でも導入が進んでいる。しかし、ビブリオバトルの公式ルールではスピーチの時間が 5 分間に設定されており、早く終わることも時間超過も原則的には認められない。そのため、5 分間で観衆を惹きつける効果的なスピーチを行うための準備は容易ではない。この課題を解消するため、図書館によるスピーチの準備の支援が行われている地域も存在する。図書館によるビブリオバトルのスピーチ準備支援のニーズは今後も存在すると考えられるが、あらゆる図書館で支援のノウハウを持っているとは限らない。そこで、日本国内の図書館において共通して用いられている規則である日本十進分類法(NDC)に基づいて支援することで、形式化されたスピーチ準備支援を行うことができる。ビブリオバトルで用いられる図書(書評本)の主題という観点からスピーチについて考えるとき、その構成や内容は書評本の主題によって変化すると考えられる。このことから、本研究ではビブリオバトルの発表において、発表する図書の主題分類によって話し手のスピーチ内容にどのような傾向や特徴があるのかを明らかにすることを目的とする。

調査対象として、2020 年と 2021 年に開催された「大学ビブリオバトル・オンライン大会」と「知的書評合戦ビブリオバトル in いこま」の中で行われたスピーチの動画データ 99 人分を設定した。それぞれのスピーチの文字起こしを行い、先行研究で提案されているビブリオバトルの発話内容のカテゴリーをタグとして付与した上で、それぞれのスピーチで用いられた書評本の主題分類ごとに、タグとして付与したカテゴリーよりもさらに詳細な発話内容と、先行研究で提案されているカテゴリーでは抽出できなかった発話内容について検討を行った。

NDC によって 1、3、4、7、9 類の主題分類がなされている書評本を用いたスピーチについて調査した結果、同じカテゴリーに区分される発話の中でも、それぞれの主題分類によって特徴的な発話がなされていたことが明らかになった。また、先行研究で提案されたカテゴリーでは抽出できなかった発話内容として、「書評者の情報や感情」、「書評者の主張」、「スピーチの構成」の 3 点を示した。さらに、先行研究で提案されたカテゴリーによる区分ができるものの、カテゴリーを適用しただけでは抽出が難しかった発話内容として、「書評本の魅力」と「お気に入りポイント」という 2 点が多数存在することを確認し、それらをカテゴリーとは異なる「ラベル」という形で付与することについても提案した。こうした詳細な発話内容についての観点をビブリオバトルのスピーチ準備支援の軸にすることで、より充実したスピーチ内容の実現と、スピーチの構成の設計に役立てることができると考える。

（指導教員　小野　永貴）